



## 利益よりも人々を優先

### - パネル 3 - 単なる雇用ではない： 公共サービスにおける仕事の将来

公共サービス労働者は金銭だけのために働くのではなく、彼らのコミュニティのために役目を果たす。そうするためには、彼らは労働権とディーセントな労働条件が必要であり、彼らが提供するサービスの管理運営に関与する必要がある。しかしこのパラダイムは世界中で変化している。

経済的、技術的發展が、また政治とイデオロギーもが、公共サービスの提供方法に異議を差しはさんでいる。従来政府職員によって提供されてきた多くのサービスが今では民間部門や非営利部門によって提供されている。国によっては、司法行政や治安などの中核的な政府機能さえもが外注化されている。その結果、雇用条件の深刻な変化、組合解体、不安定就労、およびこうしたサービス供給の文化においてコミュニティへのサービスではなく営利目的へと転換している。

同時に、技術変化は強力な業者に経済と経済に対する私たちの考え方を作り直す機会と提供する。ロボット、シェアリング経済、プラットフォームもしくはアプリ経済、ネットワーク社会などのすべてによって、労働と資本との関係が変化し、「従業員」と「使用者」「賃金」「休暇」「搾取」「プライバシー」、そして（さらに重要な）「権利」などについての長年の既成概念が検討し直されている。

こうした新しい形の労働と公共サービスを理解し、これに対応するには、私たちは技術が特定の利害関係者によって所有され、支配され、推進されていることを忘れてはならない。そして技術と公共サービスのモデルを推進する人々は、政治的、イデオロギー的、経済的アジェンダを持っていることも忘れてはならない。

昨今の傾向を理解することが、公共サービスと労働者の権利を守るために不可欠である。